

米軍F15 英で墜落

訓練中 近くに学校・住宅

【平安名純代・米国特約記者】在欧米空軍のF15D戦闘機が8日午後3時半ごろ(現地時間)、英国東部で訓練中に墜落し、炎上した。パイロットは緊急脱出し軽傷。墜落現場は畑で、民間の負傷者や建物などの

被害は確認されていない。複数の英メディアは周辺に学校や住宅などがあることから、大事故となっていた可能性なども報じている。

北東約50キロ地点にあるレイクンヒース基地に駐留する第48戦闘航空団所属機。墜落の原因など、詳細は分かっていない。

英BBCニュースは機体が炎上し、黒煙を上げる現場の映像や100秒先には

民家があること、目撃者らの証言を放映。現場近くの幼稚園が事故発生直後に子どもたちを避難させたことや、墜落機の翼など機体の一部が学校施設から360メートルの地点に飛散していた様子を語る保護者らの証言を伝えた。中にはパイロット脱出から墜落まで、機体が無人で飛行を続けていたと恐怖を語る人もいた。

F15は墜落や落下物など、事故が頻発している。昨年5月には、嘉手納基地所属のF15Cが本島東側の海上に墜落。米事故調査委員会は、原因はシステムの

不具合で操縦不能になったためと発表し、空軍側は再発防止策を取っていると飛行を再開。しかし、これが起きている。

とし8月には米東部バージニア州でF15Cが墜落し、パイロットが死亡する事故が起きている。

「トラブル多過ぎる」 嘉手納町長や住民怒り

英国で起きた在欧米空軍のF15戦闘機の墜落事故を受け、富山宏嘉手納町長は「外国で起きたとはいえ、同型機が日常的に上空を飛び町民にとっては不安を感じさせる。あまりにも米軍機のトラブルが多過ぎる」と憤った。

嘉手納基地所属機の部品落下事故が相次いでいることを挙げ「米軍は再三『安全管理に努める』と言いが、具体的な策が見えない」と指摘。「徹底した管理体制を提示するまでは、飛行を中止してもらいたい」と語気を強めた。

ひ孫が嘉手納小に通う吉見トミさん(88)は事故を聞き、「学校の上にも落ちたら大変なことになる。子どもたちが心配」と不安げな表情。「操縦士がいくら気を付けても、事故は起きるときは起きる。危ない飛行機は人の上を飛んでほしくない」と話した。

40年以上嘉手納基地の近くに住む金城睦昇さん(78)は「普段から騒音に悩まされているのに、こんなに事故が多くてはたまらない」と漏らす。「昔に比べ、飛んでいる飛行機の数が増えていると感じる。安全で静かに暮らせる日が来てほしい」と話した。